

教育と文化



デイセント・ワーク

人間らしい働き方を求めて

● 問合先 企画政策課

男女協働推進係 ☎ 2115

最近、デイセント・ワークという言葉が耳にする機会が増えた気がします。日本語では『働きがいのある人間らしい仕事』と訳されますが、わが国は、長時間労働、ハラスメント、非正規職の増加など、デイセント・ワーク後進国とも言われています。これは『労働条件を悪化させてでも利益を出す』という考え方が払拭されていないことや『長時間労働や転勤が当然とされている男性中心の働き方を前提とした労働慣行』にあると考えられます。

消につながると思われます。長時間労働やハラスメントによって、心身ともに衰弱し、離職や病につながっている労働環境が、女性に限らずすべての人が働きやすい環境に変わることは、男性にとっても望むべきことであると思います。デイセントの単語の意味は『まともな、見苦しくない、きちんとした』です。あなたは自分の体や家庭を犠牲にして、まともとは言えない働き方をしていますか。人間らしい働き方を求めて、一度立ち止まり考えてみてはいかがでしょうか。



郷土の文化財

伊万里の城館跡シリーズ⑭

● 問合先 生涯学習課文化財係 ☎ 3186

伊万里城跡

伊万里城跡は伊万里町城山にかつてあった山城跡で、現在は城山公園となつています。伊万里湾から近かつたためか、浜城とも呼ばれていました。

めて、伊万里地方より西の抑えとしていたことが文書(多久家文書ほか)から伺えます。城郭遺構の名残を見ることは難しい伊万里城跡ですが、丘陵南端の道路上(図中○)からは伊万里湾を望むことができ、木須町の金比羅城跡(木須町戸渡島)も視界に収めることができます。

昭和33年に公園造成工事が実施されたことで城郭遺構は完全に失われ、公園を訪れてもかつての城としての名残は見られませんが、文献上に散見される城であり、伊万里地区の中でも重要な城だつたと考えられます。明確に『伊万里城』の名が初めて登場するのは、1490年(延徳2年)に少弐政資が実相院に宛てた書状(河上郡文書写)に於いてです。その後は、1576年(天正4年)から翌年にかけて、龍造寺隆信の配下である鍋島信房が伊万里城を攻略したあと、城を修築し、龍造寺長信が城番を務



↑伊万里城跡から伊万里湾を望める場所

令和元年度4月実施 全国学力・学習状況調査結果

● 問合せ 学校教育課学校教育係 (☎☎3185)

市の調査結果の概要を紹介します。なお、調査結果については、市内の各小・中学校で分析し、課題を明らかにして具体的な対応を考え、授業改善や家庭学習をはじめとする基本的な生活習慣の定着につなげます。

調査内容

■ 学年・教科など

- ▷ 小学校（第6学年）：国語、算数、質問紙（生活・意識）
- ▷ 中学校（第3学年）：国語、数学、英語、質問紙（生活・意識）

■ 設問内容（今年度からAとBを併せた問題に変更）

- ▷ A（知識）：身に付けておかなければ、あとの学年で影響を及ぼす内容、実生活において不可欠である知識・技能など
- ▷ B（活用）：知識・技能などを実生活で活用する力、課題解決のための構想を立てて実践し、評価・改善する力など

調査結果

1 学力調査（正答率）

【下表：市の記号説明】

- ▷ 全国平均との比較（左側：黄色 ） ○：上回っている 一：同程度 △：下回っている
- ▷ 県平均との比較（右側：青色 ） ○：上回っている 一：同程度 △：下回っている ※同程度とは0.4%以内の開き

小学校（第6学年）

市	国 語		算 数	
	全国	県	全国	県
	○	○	△	一

市は、国語については全国・県平均を超え、算数については全国を若干下回りました。国語は『話すこと聞くこと』『書くこと』『読むこと』『伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項』の領域で、算数は『図形』の領域で全国・県平均を上回りました。他の領域では、全国・県とほぼ同等の結果が出ています。

中学校（第3学年）

市	国 語		数 学		英 語	
	全国	県	全国	県	全国	県
	△	△	△	△	△	△

市は、すべての教科区分で、全国・県平均を下回りました。国語は『話すこと聞くこと』『書くこと』『読むこと』『伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項』に、数学は『数と式』『図形』『関数』『図形』『資料の活用』に課題が見られました。英語では『読むこと』『書くこと』に課題が見られました。

2 質問紙（生活・意識）調査

小学校（第6学年）

■ 全国・県との比較で良好だった項目

- ▷ 人の役に立つ人間になりたいと思っている
- ▷ 学校のきまりを守っている
- ▷ 就寝、起床時間が決まっており、毎日朝食をとっている

■ 全国・県との比較で課題があった項目

- ▷ 将来の夢や目標を持つことができていない
- ▷ 積極的に地域や社会のために何をすべきか考えていない
- ▷ 積極的な読書の時間が少ない
- ▷ 家庭学習時間（塾を含む）が少ない

【児童の家庭（塾を含む）での勉強時間別割合】

	平 日		
	2時間以上	1～2時間	1時間未満
全 国	29.3%	36.7%	34.0%
県	23.9%	40.4%	35.7%
市	20.5%	40.4%	39.1%

中学校（第3学年）

■ 全国・県との比較で良好だった項目

- ▷ 人の役に立つ人間になりたいと思っている
- ▷ 学校のきまりを守っている
- ▷ 就寝、起床時間が決まっており、毎日朝食をとっている

■ 全国・県との比較で課題があった項目

- ▷ 自分にはよいところがあると思っていない
- ▷ 積極的に地域や社会のために何をすべきか考えていない
- ▷ 自分で計画を立てて学習できていない
- ▷ 家庭学習時間（塾を含む）が少ない

【生徒の家庭（塾を含む）での勉強時間別割合】

	平 日		
	2時間以上	1～2時間	1時間未満
全 国	35.7%	34.3%	30.0%
県	26.5%	36.4%	37.0%
市	17.3%	31.6%	51.1%

3 今後、市として力を入れていくこと

■ わかる授業の展開（学校）

学習内容を分かりやすくするための方法を探り、基礎・基本の徹底とそれらを活用できる力を高める授業を実践する。

■ 家庭学習の習慣化（家庭・学校）

家庭と学校が共通理解を図り、授業と結びつけた効果的な家庭学習を推進する。

■ 自己有用感を高める取り組みの推進（家庭・学校・地域）

自己有用感を高めるために、家庭や地域との連携を図り、さまざまな体験活動への参加を促す。

※本調査は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものです。